

雲仙岳火山活動状況 (1995年11月~1996年1月)*

Volcanic Activity of Unzen Volcano (November 1995 - January 1996)

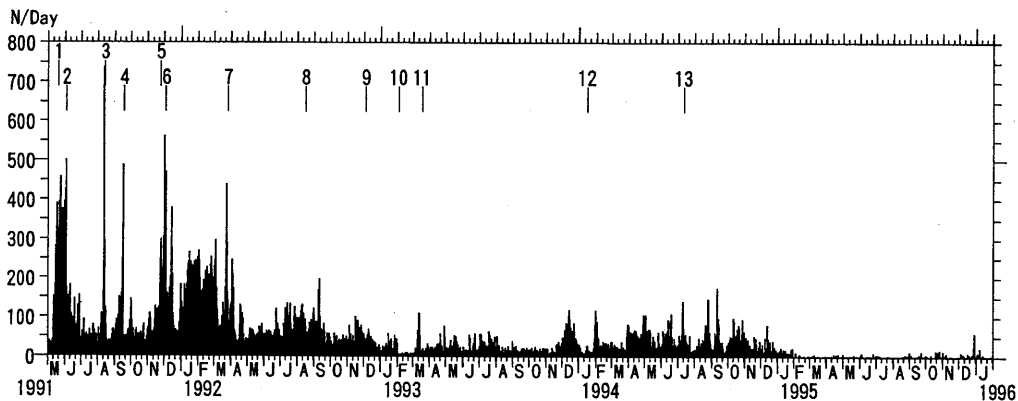
九州大学理学部附属島原地震火山観測所
Kyushu Univ.

この期間、火山活動に目立った変化は認められないが、引き続き、溶岩ドームの小規模崩落による微動、火口直下を震源とする微小地震が時折観測された。第1図に、日別震動回数(10秒以上)、第2図に日別火砕流発生回数を示す。

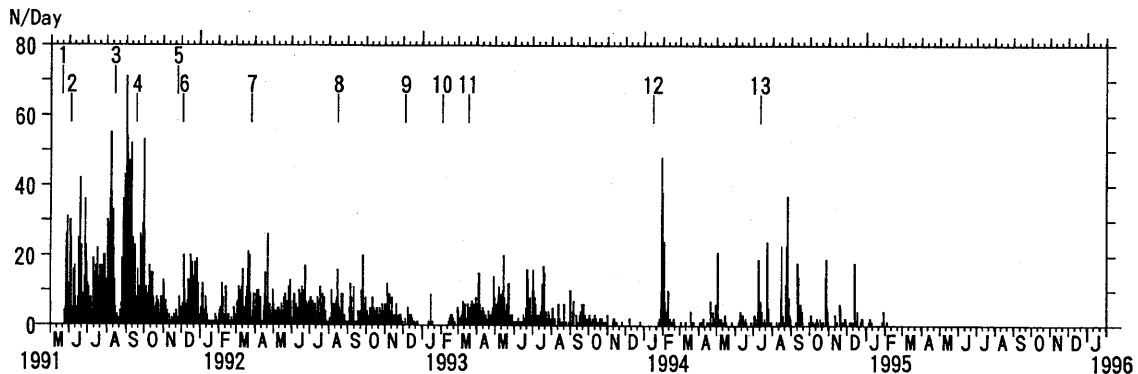
第3図に、九州中西部の1995年10月~1996年1月の震源分布を示す。熊本県中部、天草灘ではM3.5以上を含むややまとまった地震活動がみられるが、島原半島や橘湾での地震活動は依然として低調である。

第4図に、普賢岳北麓における地磁気変化を示す。全磁力差は減少傾向を示しており、観測点の南方にある普賢岳はいまだ消磁傾向が続いているといえる。第5図に雲仙岳周辺4カ所の傾斜観測点における傾斜の日平均値の変化を示す。前回報告に続き、特に火山活動の変化を表すような傾斜変化はみられない。

第6図に、溶岩ドーム頂部での噴気温度変化を示す。E点を除く測定点では噴気温度の単調な低下傾向がみられている。

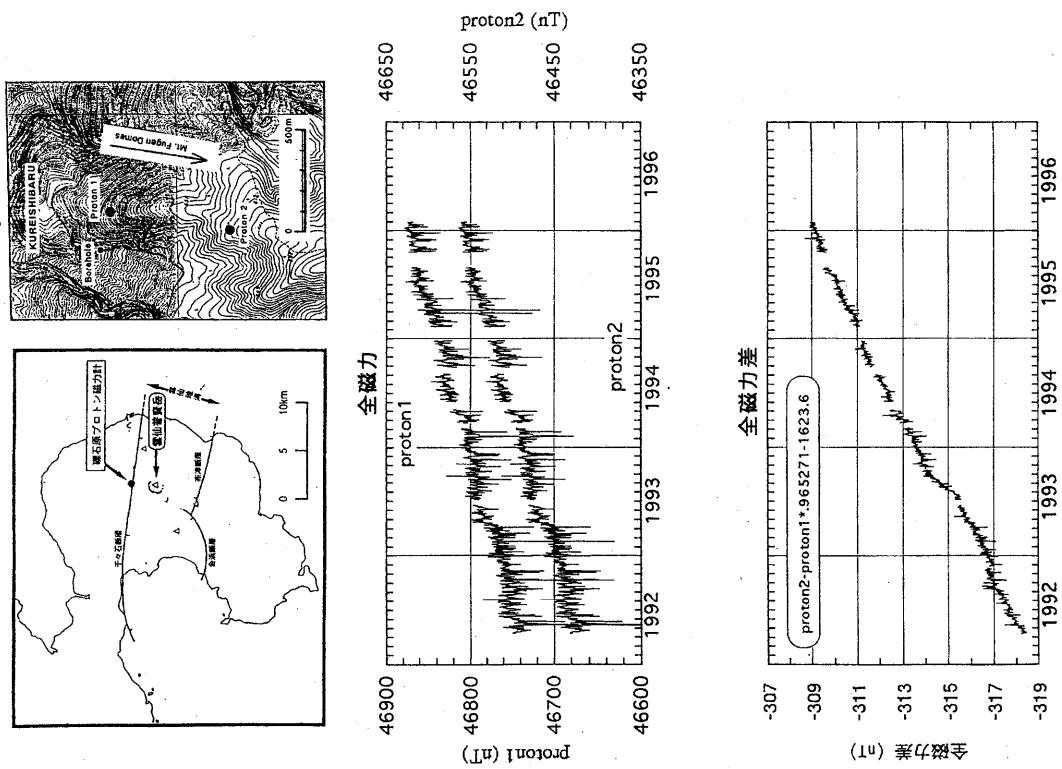


第1図 日別震動回数(震動継続時間10秒以上)
Fig. 1 Daily number of seismic signals (DURATION TIME \geq 10 s).

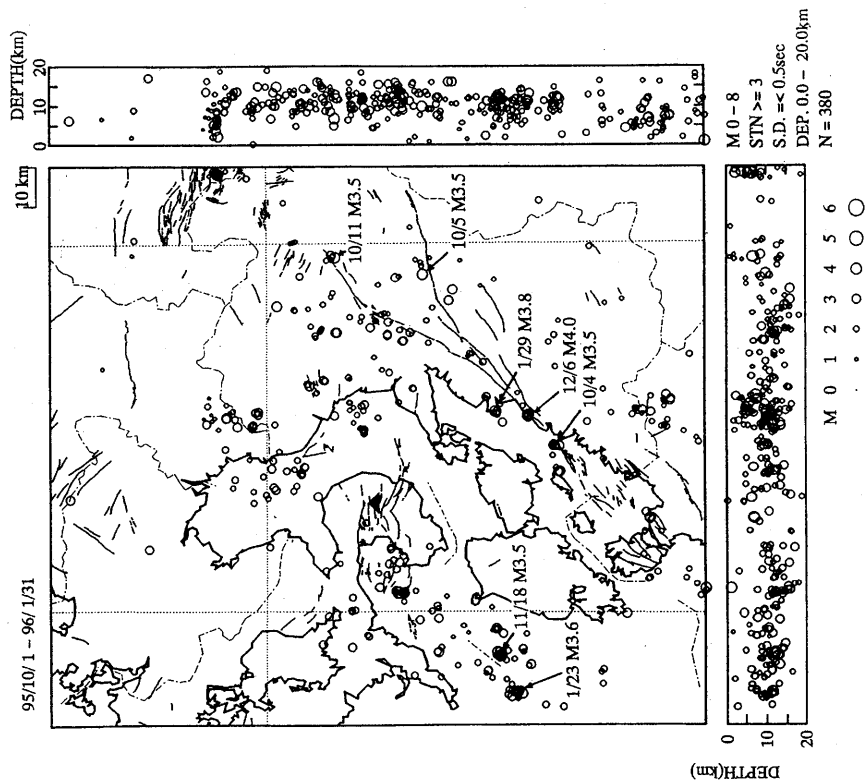


第2図 日別火砕流発生回数(陸上自衛隊)
Fig. 2 Daily number of pyroclastic flows. Observations were made by the Ground Self-Defense Force.

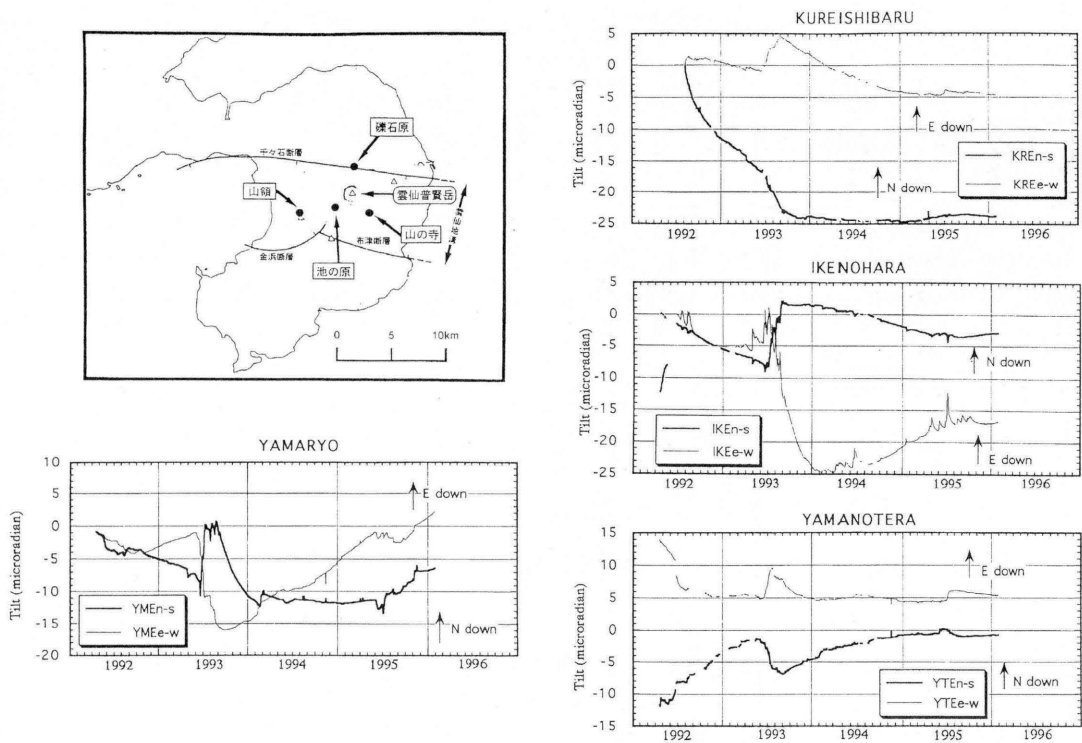
* Received 22 Mar., 1996



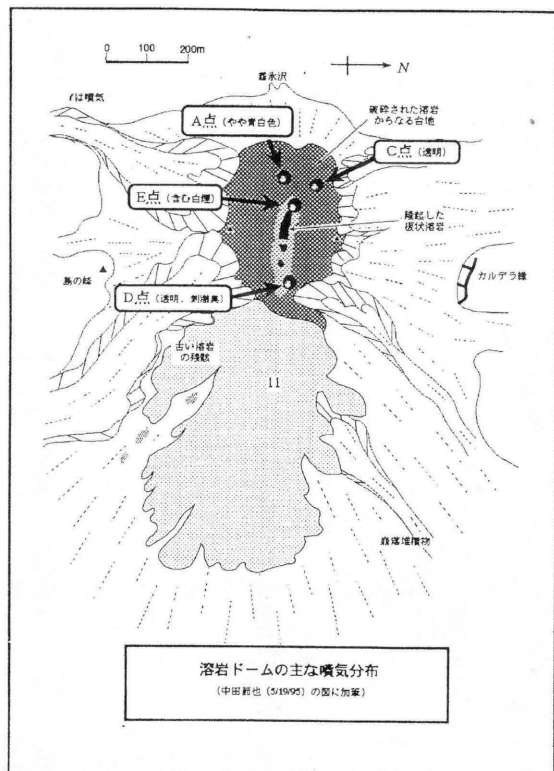
第 4 図 雲仙普賢岳北麓における全磁気力の変化
 Fig. 4 Variation of the geomagnetic total intensity.



第 3 図 九州中西部の震源分布 (1995年10月~1996年1月)
 Fig. 3 Hypocentral distribution in mid-western Kyushu
 (Oct. 1995 - Jan. 1996).



第 5 図 雲仙普賢岳周辺の傾斜変化 (日平均)
Fig. 5 Variation of the crustal tilt data.



第 6 図 溶岩ドーム頂部での噴気温度
Fig. 6 Temperatures of fumaroles at the top of the dome.

